

## 新年あいさつ

2014年の輝かしい新春を迎え、町民の皆さまとともに心から慶び申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、改めて心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、大胆な金融政策、財政政策を柱とするアベノミクス効果によって、デフレ脱却と景気回復の兆しが表れたことや日本中が歓喜した2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定など明るい話題があった一方で、領有権に起因する周辺国との緊張、TPP交渉への参加など、日本の将来を左右する出来事が続きました。

本町においては、1年を通して気候変動が大きく、春先の融雪遅れや天候不順から営農への影響を心配しましたが、6月以降の天候回復で、水稻は作況指数が103の「やや良」となり、3年続けての豊穰の秋を迎えることができました。また、畑作物も概ね平年並みの収量が見込まれ安堵しているところです。これも偏に、関係機関のご指導と農業者の皆さまの努力の賜と感謝申し上げます。

また、皆さんからの投票で選ばれた厚真町のイメージキャラクター「あつまるくん」は、ゆるキャラグランプリ2013において、8,973ポイント獲得し全国1,580体の中で244位、北海道内では66体中14位と大健闘しました。改めて皆さまの応援に感謝いたします。「あつまるくん」は本町のイメージ戦略の顔として、町の知名度アップと厚真製品のPR活動に全力で取り組んでまいりますので、皆さまもご愛用をお願いします。

さて、今年の干支は甲午（きのうま）で、「将来を決める重要な年、激動の年」との定説があるようですが、本町においては町民の悲願である厚幌ダム本体の着手が予定されており、また、元日にはNHKテレビの全国放送で取り上げられるなど、大きな飛躍を予感させてくれます。町政におきましても、現行の第3次厚真町総合計画に続く次期計画の策定に着手し、厚真町の未来について町民の皆さまと一緒に考えてまいりたいと思いますので、ご協力をお願いします。

TPP交渉の行方は予断を許さない状況が続いていますが、1月から各国閣僚会合において協議が再開される見込みであり、JAとまこまい広域と町内関係団体で組織する「厚真町TPP協定対策本部」との連携を密にして、これまで同様に断固反対の立場で活動を展開し、農産物主要5品目の関税撤廃の阻止に努めてまいります。

農業政策について自民党及び政府は、昨年「農業・農村所得倍増目標10カ年戦略」を打ち出し、経営マインドを持った農業者が活躍できる環境を整備し、農業全体の所得増加につなげる政策に着手しました。具体的には長年続いた米の生産調整を2018年（平成30年）を目途に廃止し、農地集約の加速化を図るため新たに「農地中間管理機構」を創

設するなど、国際競争力の向上と強い農業・農村づくりを目指して農政は大きな転換期を迎えています。本町は今、厚幌ダムを水源とする国営農業用水再編対策事業や生産効率の向上を図る道営ほ場整備事業が進行中であり、認定農業者への農地集積も86%まで進んでいます。国の農業政策転換が本町にどのような効果をもたらすか不確実ではありますが、本町農業発展の好機ととらえ、担い手の育成と生産基盤整備の促進に積極的に取り組んでまいります。

これまで、移住定住の受け皿づくりの中心がフォーラム・ビレッジの整備でありましたが、間もなく上厚真柏区土地区画整理事業が完了しますので、より多様なニーズに応えられるようになります。これを契機として両地区での宅地分譲の積極的な取り組みや上厚真地区においては認定こども園、学童保育・放課後教室など新たな拠点施設の立地場所の選定などを進め、本町の自然環境と立地条件を活かした若い世代に魅力的な移住定住促進策を展開してまいります。また、古民家の再生やグリーン・ツーリズムの推進、厚幌ダム周辺環境整備構想など本町の潜在力を生かした取り組みも加速しなければなりません。防災・減災対策など山積する課題を一つずつ解決しながら、2014年が大いなる飛躍の年となるよう、職員とともに全力を傾注してまいりますので、皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

平成26年1月1日

厚真町長 宮坂 尚市朗